

学校名	竹富小中学校
担当教員名	

活動のテーマ	うつぐみの心を守る てどうん（竹富）の減災・防災教育
主な教科領域等	教科領域（ 総合・社会 ）
アプローチ	※該当するものに□をつけてください（複数可） ☐ 地域連携 ☐ 避難訓練・避難所運営 ☐ 専門家の活用 ☐ 体験学習 ☐ 学校間・地域間交流 ☐ 教科連携 ☐ 地域発信 ☐ カリキュラム開発
活動に参加した児童生徒数	（ 小1～6、中1～3 学年 33 人）（複数可）
活動に携わった教員数	（ 4 ）人
活動に参加した地域住民・保護者等の人数	（ 37 ）人 【 ☐ 保護者・ ☐ 地域住民・ ☐ その他（ 気象台・防災士・竹富町役場防災課 ）】 ※児童生徒・教員以外で活動に参加する人の区分に□をつけ、人数をお書きください。（複数可）
実践期間	西暦 2024 年 10 月 12 日 ～ 西暦 2024 年 10 月 13 日
想定した災害	※該当するものに□をつけてください（複数可）。 ☐ 地震 ☐ 津波 ☐ 台風 ☐ 洪水 ☐ 河川氾濫 ☐ 土砂 その他（ ）

活動報告

1）活動の目的・ねらい

親子防災キャンプを行うことで、親子で防災に対する意識を高める。

2）実践内容・実践の流れ・スケジュール（※図表等を使用して分かりやすく記述してもよい）

- 実践内容「親子防災キャンプ」
- 実践の流れ【全児童生徒への事前学習、避難経路作成用のワークシート配布 → 親子防災キャンプ 】
- 親子防災キャンプスケジュール

日にち	時間	内容
10月12日（土）	10:00	・地震発生、津波警報発令想定の島内放送 ・竹富小中学校屋上へ避難
	10:30～12:00	・防災士による講話【体育館】
	13:00～15:30	・体育館にて気象台による講話・実験・クイズ【体育館・体育館周辺】
	16:00～	・防災倉庫の見学と防災体験【備蓄倉庫・体育館周辺】
	18:00～	・夕食準備 ・防災食ごはん（防災カレー、アイラップごはん等）【体育館周辺】
	21:00～	・体育館、教室で就寝準備 ・就寝
10月13日（日）	7:00～	・起床、朝食
	8:30～	・防災キャンプを通してのふりかえり、発表【体育館】

3）9月研修会の学びの中から自校の実践に活かしたこと。研修会を受けての自校の活動の変更・改善点。

昨年度まで（助成金を受ける前）の実践と今年度の実践で変わった点。助成金の活用で可能になったこと。

- 研修で学んだことを踏まえた防災キャンプ事前学習を行うことができた。
- 校内研修で、9月研修会の発表を行った。海洋教育と防災教育でのつながりを共有し、次年度の計画に取り入れてもらった。
- 本校が島の避難所になっている。助成金を活用することで、避難所になったときに必要な道具を購入できた。

4) 実践の成果

①減災(防災)教育活動・プログラムの改善の視点から

- ・親子防災キャンプを行うことで、災害(地震・津波)の起こり方について理解し、災害時にどのような対応をすることが適切なのか、保護者も交えて考えさせることができた。
- ・減災(防災)教育活動の取り組みを島内の各集落に周知することで、防災対策の推奨を行うことができた。

②児童生徒にとって具体的にどのような学び(変容)があり、どのような力(資質・能力・態度)を身につけたか。

- ・小学1・2年は、地震・津波の認知が低かったが、親子防災キャンプを行うことで、地震・津波について理解し、どのように対応していくとよいか判断する力が身についた。
- ・小学3～6年は、地震・津波について理解していたが、防災対策に対しての意識に個人差があった。親子防災キャンプを通して理解を深め、各家庭防災対策を行い、当日も防災バッグをもって避難することができた。
- ・中学生は、防災対策に対しての意識の個人差や、実際に災害が起きたときにどのような行動をするかという点について考えることができなかった。親子防災キャンプのふりかえりの場面において、「災害があったときの家族の集合場所を決めておく」「防災食の準備をする」など、具体的に考えることができるようになった。

③教師や保護者、地域、関係機関等(児童生徒以外)の視点から

- ・9月の研修会での様子を校内研修で共有したことで、教師にも防災教育の意識を高めることができた。本校は海洋教育に力をいれているため、「海洋×防災」など次年度への教育活動の視野を広げることができた。
- ・保護者にも参加、協力をしてもらったことで、防災バッグを各家庭準備することができた。
- ・竹富町役場、気象台、防災士の関係機関と関係をもつことができたため、教育活動で活用していきたい。

5) 工夫した点、実践の特徴・特筆すべき点

- ・9月の研修に参加する直前に、地域の子ども会主催「親子防災キャンプ」が行われると決まった。本校職員も子ども会の役員でもあったため、学校共催として親子防災キャンプの取り組みを一緒に行うことができた。

6) 実践から得られた教訓や課題と、次年度以降の実践の改善に向けた方策や展望

- ・実践から、災害時に、家族でどこに避難をしておくか等々の家族会議の重要性を各家庭が感じてくれた。
- ・保護者を巻き込んでの活動ができた。観光地でもあるため、島をあげての訓練など、地域の方も一緒に活動できるようにしたい。
- ・次年度以降、継続的に防災教育の取り組みが他教科等と関連づけながら行えるよう、教育計画に位置づける。

7) その他(※特にあれば記述)

- ・6)の次年度以降、「継続的に防災教育の取り組みが他教科等と関連づけながら行えるよう、教育計画に位置づける。」をするために、海洋教育と関連付け、位置づけることができた。

3. 令和7年度 各学年の総合的な学習の時間の探究課題、海洋教育目標と体験活動例

学年	総合的な学習の時間の探究課題	海洋教育目標	体験活動例
全学年	地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々(伝統文化)	○海に関わる体験活動を通して、ふるさとに誇りと愛着を持ち、持続可能な竹富島のまちづくりに関わってこうとする意欲や態度を養う。 ○海を愛し、未来に向けて守っていくこうとする態度を養い、自らの生活のあり方を考える。 ○探究、まとめ、発表などの学習活動を取り入れ、目的や意図に応じて表現する力、発表する力を高める。	結願祭、種子取祭、イーヤチ作り、もずく採り、アーサ採り、ビーチクリーン
小1,2	身近な自然環境とそこに起きている環境問題(環境)	竹富島の良さや課題について知る。	島内探検、グラスボート体験
小3,4	食をめぐる問題とそれに関わる地域の産業や生産者(食)	竹富島の暮らしや自然、生き物について知る。	命草学習、エビ養殖、グラスボート体験
小5,6	自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題(エネルギー) ものづくりの面白さや生活の発展(ものづくり)	気候危機の現状を知り、海の生き物について学び、海を守ることを通して、持続可能な社会の実現に向けて行動する。	海水淡水化装置見学、グリーンカーテン、エシカル消費、シュノーケリング体験
中1,2,3	自然環境と環境問題(環境) 職業の選択と社会への貢献(職業) ものづくりの面白さや生活の発展(ものづくり)	気候危機の現状を知り、環境問題について学び、持続可能な社会の実現に向けて行動する。また、島のことば、芸能について学び、伝統や文化の継承についての取組を提案する。	エコツアーガイド、珊瑚学習、環境に優しい商品づくり、シュノーケリング体験

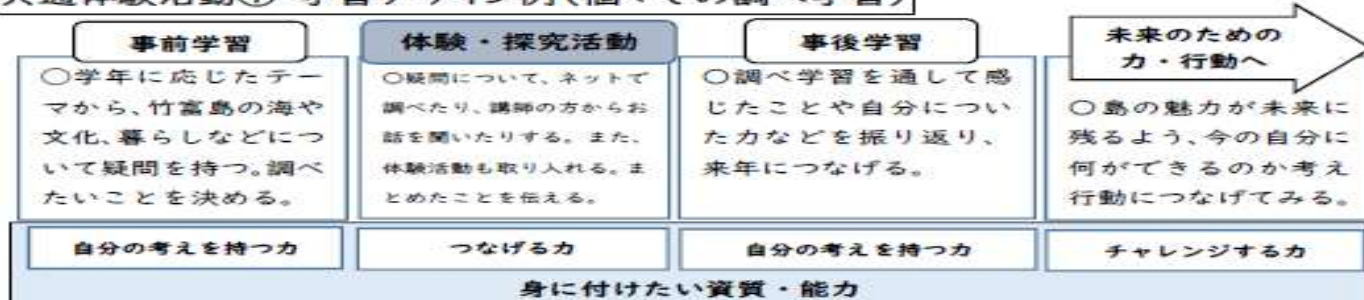
5. 海洋教育の体験活動の学び・教え方（もぐく採り・アサ採り・ビーチクリーン・イーヤチづくり・種取祭）

海洋教育の学習は知識の伝達にとどまらず、体験、体感を重視して、探究や実践を重視する参加型で行う。

体験活動のイメージ



共通体験活動① 学習デザイン例（個々での調べ学習）



共通体験活動② 学習デザイン例（地震・津波避難訓練） 4 月

